

はじめに

お茶の水女子大学は、平成 21 年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム【テーマ A】（事業期間 平成 21—23 年度）に採択されました。それを受け 3 年間にわたり「多角的な学士力養成を担う総合的学修支援；多様な学生たちの学習動機づけを喚起し続ける支援体制の開発と運用」事業に取り組みました。本書はそのプロジェクトの最終報告書です。

大学教育推進プログラム【テーマ A】では、申請にあたりあらかじめ事業対象として 20 項目にわたる大学教育推進テーマが掲げられていました。本学ではそのうち「体系的な教育課程」「幅広い学びの保証」「キャップ制」「情報通信技術の活用」「成績評価基準」「GPA」「多面的な評価」の 7 項目に焦点化し、これらを事業の三本柱によって独創性と実効性を満たす方法をとって取り組みました。

その第一は学士課程で開講しているすべての授業科目に「カラーコードベンチマーク」を導入することでした。これは同時に実施した複数プログラム選択履修制度と相まって「体系的な教育課程」を再構築し、学生に「幅広い学びの保証」をなす作業になりました。本学は 3 学部から構成される小規模な大学ですが、このカリキュラムの再体系化は 1600 を越える数の科目が対象となるもので、まさにカリキュラムの総点検作業になりました。結果的にベンチマーキングとともに再構成されたカリキュラムには妥当な体系の再構築を得ることができました。複数プログラム選択履修制度は現時点で開始 1 年目ですが、この先、これをもとに幅広い学びの保証が実質化されていくことになります。

本事業の第二の柱は「GPA 制度」の導入でした。本学ではこの指標を実効性のある成績評価指標として運用していくことを第一の目的にしました。そこで単に「GPA」を導入するだけでなく、教育改革として求められている「多面的な評価」にも応じることができ、将来にわたりさまざまな機会に有効な「成績評価基準」としても活用していくに十分な指標としてファンクショナル GPA の導入をおこないました。結果的にこの指標の導入により、本学で実施されてきた厳格な成績評価がほぼ妥当なものであった事実が確認されたり、単位制度の実質化に向けての効果をみせはじめ、実態にそくして多少無理があった「キャップ制」について穏当にして代替的な解決をもたらす可能性がみえてきたなど、目に見えるかたちの効能を発揮いただいています。

第三の柱は「総合学修支援センターと学修情報支援システム」の導入でした。教育課程を再体系化し「幅広い学びの保証」を制度的になすことは、教育現場にとってはこれまでどおりとは異なる困惑をもたらすことになります。その学生、教員双方にとっての戸惑いを軽減し、さらには多角的な学士力養成に向けた積極的な学修支援をおこなっていくために、全学で共通利用できる総合学修支援センターの設置は不可欠なものでした。また発展著しい「情報通信技術の活用」により、あらたな学修情報支援システムを開発し、GPA やカラーコードベンチマークを活用した学修情報をユビキタス環境で提供することも時代背景からして必然のことでした。完成したセンターと情報システムはこれらの要請を十分に受けとめ、かつ先進例となりうる機能性をもったものに仕上がったようにみえています。

本報告書にはこれら本事業の全容、すなわち計画、実施プロセス、成果、関連調査研究・実践報告、継承と展開について詳しく綴ってあります。手短かに成果として何ができたのかを確認されたい場合は「2-2 エビデンス・ベースでの事業成果のまとめ」に目を通していただければよいかと思われまます。

本事業は当初より事業期間終了後にも事業が継続し、さらに発展していけるよう学内にノウハウとリソースを蓄積するようこころがけて実施してきました。今後その展開を現実化させるためには学内の教職員、学生はもとより、同じ課題をもち方向性を同じくする他大学、他機関との協力が不可欠であると考えております。どうぞ今後とも皆様のお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

平成 24 年 3 月吉日

国立大学法人お茶の水女子大学 理事・副学長 耳塚寛明